

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループ2)

事業所番号	0673200333		
法人名	有限会社 ほほえみの里		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	山形県飽海郡遊佐町江地字中屋敷田3-7		
自己評価作成日	令和 5年 9月 14日	開設年月日	平成 15年 9月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※ グループ1に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 10月 11日	評価結果決定日	令和 5年 10月 27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で交流を持ちながら安全に安心した生活ができ、残存機能を活かしその人らしさを大切に理念を掲げ、毎回の職員会議で理念の確認を行い実践しています。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	総括管理者の生まれ育った地域に施設があるため、地域の方は皆顔見知りで地域の避難訓練や集会にも参加させて頂いていましたが、新型コロナウイルスの影響もあり交流は減少しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族やご友人など、認知症に対する偏見や誤解が生じる事がないよう、必要あれば相談、アドバイスなど助言させて頂き、理解頂けるよう支援しています。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2か月に1回を目途に開催させて頂いていますが、新型コロナウイルスの影響で少人数での開催など制限をもって開催しなければならない状況が継続しています。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	遊佐役場の窓口には随時伺い、利用者様の情報報告を行ったり、各種手続きの情報を頂いたりしています。また、新型コロナウイルスの感染状況や対策など情報の共有化に努めています。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	介護理念に掲げた「拘束しない介護」を目指し、3か月毎にカンファレンスを開催しています。徘徊による外出や転倒防止のために、玄関に風鈴、ベッド脇にはナースコールとして鈴を設置させて頂くなど、家庭的になるよう工夫しながら拘束しないケアを実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修の実施、言葉遣いなど些細な事から虐待のリスクが高まってくる事から、その都度職員間で相談しあい、一人で悩まずストレスを軽減できるような環境作りに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	施設では現金や通帳を預からないと定めている事から、日常生活自立支援事業など活用させて頂いています。内部研修でも取り上げ理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人、ご家族に対し事前に施設の見学をして頂き、その際に施設で出来る事や出来ない事などを丁寧に説明し十分に理解して頂いてから入居を決めて頂けるよう支援しています。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当者の明記やご意見箱の設置。また、利用者様とは何でも話し合える環境を目指し取り組んでいます。ご家族との情報共有も行い、要望あれば支援に取り入れています。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気が付いた事を申し送りノートを活用しながら意見の提案、検討を行っています。また、重要な案件の際には、臨時に職員会議を開催し話し合いの場を設けています。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤労年数や資格の有無だけの評価ではなく、仕事に対する姿勢や能力向上への意欲を昇給や賞与に反映させています。		
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修会だけではなく、介護技術の向上へ繋がる新聞の記事や書籍などがあれば随時研修会を行っています。また、6ヵ月毎に自己目標を掲げ反省と成果を振り返りスキルアップを目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルスの影響もあり研修会等の交流は難しいが、感染症対応等の情報交換を行い、感染予防の参考にしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族が安心してサービス利用できるよう、事前に施設の普段の様子を見て頂き、雰囲気を感じて頂きながら、不安や要望を受け止め施設の特徴を説明させて頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心配事や要望を伺い、施設で対応可能な部分をご理解頂きながら、十分に話し合う事でご家族が安心して生活できるよう支援させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、他サービス事業所、医療機関等の関係者同士が十分に話し合う事で、ご本人が必要なサービスを見極め、サービス提供を行っています。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の残存機能を生かして共に生活していく中で、利用者様の豊富な経験や知識を学ばせて頂きながら良好な関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染予防の為、電話にて近況報告や利用者様と直接会話して頂き、面会で来所されるご家族には感染症対策を実施し面会して頂きながら、家族の絆を大切にしています。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話での交流や感染症対策を実施しての面会にて友人関係が継続できるよう支援させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や相性に合わせ隣同士の席にしたり、職員が仲に入ったりと配慮し、家族の様な居心地の良い環境を心掛けています。利用者様同士で助け合う姿もみられます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で、やむなく退所となる場合であっても、ご本人やご家族の相談に応じ他サービスの利用等、退所後も安心して生活できるよう支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話や関わりの中で、利用者様の要望や意向を見極めサービスプランへ反映できるように努めています。家族様へも協力して頂ける所はお願いしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時にご本人やご家族より、これまでの生活の様子を伺い職員間でも情報を共有しています。面会のご友人やご親族からも情報を頂きながら支援に活用しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり個別に関わり、状態の些細な変化が見られる際は経過記録簿への記載や申し送りにて職員全員、またご家族と情報を共有しています。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの作成は、夜勤者以外全職員参加にて、ご本人の希望やご家族の意向、日々の生活の中での課題をプラン作成の参考にしています。6ヶ月毎に見直し評価を行っています。		
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム日誌、個別の経過記録簿を活用し記録しています。日々の変化や受診結果、薬の変更等、申し送りノートにも記入し情報を共有し支援に活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の精神、身体、生活状況を聞き取り、必要であれば行政や他事業所と連携をとりながら必要と思われる支援が実施できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の慣れ親しんだ美容室や商店へ外出したり、地域の出張理容を依頼したり、三味線、踊り、唄などのボランティアを受け入れ利用者様の楽しみとなっていました。新型コロナウイルスの影響で実施困難となっています。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望でかかりつけ医を決めて頂き、ご家族が付き添い可能な際は、近況の報告やバイタルチェック表を提供し受診されています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が看護師である事から、利用者様の小さな変化も常に報告し指示を仰いでおり、緊急な受診にも職員付き添いにて対応しています。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、入居中の情報を医療機関に申し送り情報の共有を行っています。ご家族や医療機関と連携し、入院中の状況を確認しながら、早期退院に向けて支援しています。		
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の段階で、重度化した場合や終末期での利用者様やご家族の意向をお聞きし、当施設で対応出来る事と出来ない事を十分に説明し、納得して頂いてから入居と段階を経ています。また、入院や他施設への入所申請支援も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、マニュアルを基に全職員を対象に研修会を行っています。看護師であるホーム長より応急手当や初期対応の指導を受けています。		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練でマニュアルを基に避難誘導、初期消火、消防署への通報、水消火器の使用実践を行っています。災害時に協力して頂けるよう区長をはじめ地域住民の方をお願いしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護条例や守秘義務の重要性について、全職員を対象に研修会を行っています。一人ひとりの人格を尊重した声掛けが出来ているか、また、職員同士確認しながら日々の声掛けに気を付けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自由に話せる環境、雰囲気を中心掛けています。話づらい事は居室で個別に話を聴かせて頂き希望に添えるよう支援しています。		
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内では、大まかな生活リズムは決まっていますが、利用者様一人ひとり生活してきたリズムがあるため、利用者様のペースで過ごせるよう柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援が必要な方は、着替えを利用者様と選んだり、整容もなるべくご本人が行えるよう支援させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好に合わせてメニューを工夫したり、利用者様に合わせた食事形態で提供しています。職員も一緒に同じテーブルで同じものを食べ、家族の一員として食事を楽しんでいます。食後には食器の片付けや皿拭きなどのお手伝いをして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量は個人差があるので、配慮して提供しています。栄養バランスは、主治医の指示の基、メイバランスなどで補っている方もいます。水分の摂取量に注意しながら支援をしています。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後一人ひとりの残存機能に合わせた口腔ケアを行っています。時間を要する場合であっても、なるべく声掛けや見守りにて対応しています。		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンに合わせ、一人ひとりに応じた関わりを行っています。失禁時には羞恥心に十分配慮しながらトイレで気持ち良く排泄できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医より処方された下剤のみに頼らず、毎日の体操や食物繊維の多い食材を摂取して頂いたり便秘予防に努めています。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、ゆっくりとくつろげる貴重な時間として、それぞれ一人ひとりの要望に応じ、おしゃれ染めをしたい方や2度のシャンプー希望の方など時間をとって入浴を楽しまれています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣を理解し、柔軟に対応しています。ゆっくりTVを見たい方やラジオを聴きながら休みたい方など自分に合った時間を過ごされています。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノートなどを利用し、薬の変更の報告、薬の作用、副作用を職員全員へ周知し、薬変更後はバイタル異常や身体状況の変化に注視するよう、変化ある際は直ぐに施設看護師へ報告するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草むしりや皿拭き、洗濯物干しなどを自分の役割として過ごされる方や、テレビを見られたり楽器演奏を楽しみとされる方など一人ひとりの思いを大切にしています。気分転換で職員付き添いにて散歩を楽しまれる事もあり自分らしく生活できるよう支援しています。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もあり外出は控えている状況です。平常生活に戻った折は希望に沿った支援をしていきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルスの影響もあり買い物なども含め外出は控えている状況です。利用者様からの要望があれば代理購入にて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は自由にやり取りができるよう、宛名書きや投函支援を行っています。電話の要望があれば、すぐに対応し、気軽に会話を楽しんでもらえるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人ひとりの生活空間(家)であるよう支援しています。朝日が昇ると共に廊下のカーテンを開け鳥海山に合掌する方、夕陽の沈みを眺めたい一心で窓から見える田園風景を見つめながら心待ちにする方、季節感は環境的にも溢れ、季節や行事、ニュースなどの話題が豊富です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方々の楽しい会話が他の方にも楽しい話題となったり、暖かな家庭的な雰囲気が作れるよう支援しています。独りになりたい方は、居室にて音楽や読書を楽しまれたり、休息されたりと思いいに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、ご本人の使い慣れた寝具や家具などを持参頂き、今までの生活環境に近づけるように工夫しています。また、花が好きな方は身近に咲く花を提供し触れ合えるように、カレンダーに本日の印をつけたりと利用者様と共に居心地よく過ごせるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の自立心を阻害することのないよう、自由に必要な物を取り出せ使いやすいよう支援しています。動線には物を置かず、なるべく見守り支援にて対応しています。残存機能を考慮し過剰な支援とならないよう心掛けています。		